




何だって僕は
有名だから



あ あの…
お約束通り
お食事のご招待を
受けたのですけど



やあ ミライ君
僕の招待を受けてくれて
うれしいよ



こうやって
互いの粘膜を使って
貪り合うのさ



ここでの食事には
ちよつとしたルールが
あってね



まさかできない
なんてことはないよね



なんせ
僕は有名人だからね

ああ 安心してくれ
君の事務所の許可は
もう取ってある

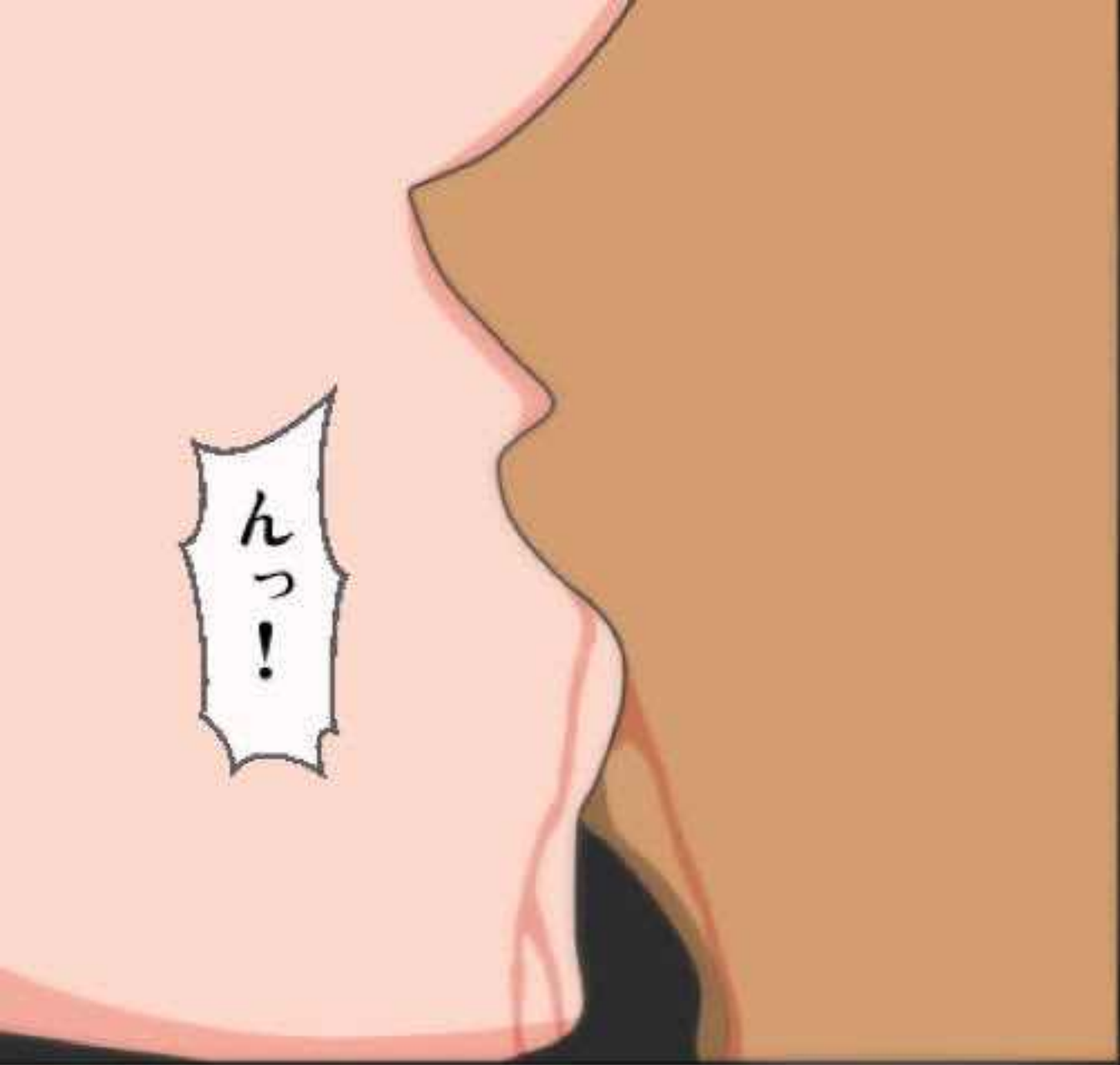


失礼します……



断ったらどうなるかも
考えたほしいなあ

そ
それは……



んっ!



さあ早く
君の口の中のお酒を
僕に飲ませてくれないかな

ん……



今度は唾液までっ!



いやっ!
舌を絡ませてるっ!



おっと
下まで垂れてしまった
もったいない



これからもっと
楽しいことが
待っているのに



ミライ君は
もうへたってしまっただかな?



ひっ!



これから楽しくて
気持ちのいいことをするのさ
大丈夫
事務所の許可は取ってある

な 何をするんですか!



君の事務所は有能だね
君の今後の待遇を
僕に任せてくれたのさ



許可は取ってあるって……



僕の女になれば
これから色んな仕事を
回してあげられる
持ちっ持たれつの関係さ
賢い君にならわかるだろ？



つまり君の態度で
事務所の未来が決まる
君の名前に
ぴったりの状況だね

そんな……
ひどい……



そ そんなことは……

かわいいね
君は



それにほら
君の下の口は
だいぶ僕の指を
気に入ったようだけど



……はい
わかりました……

君がかわいすぎて
僕のこども
こんなになったままだよ

何とかしてくれるね？



たどたどしさが返って気持ちいいね
君は男を喜ばせる才能があるみたいだ



ああ
そうだ
そうゆっくり手を動かして

はい……
こうですね……



ふふ とても綺麗だよミライ君
今度は僕の汚れたちゃんぽを
君のかわいい口で洗ってくれ



うあ
少し漏れてしまったよ

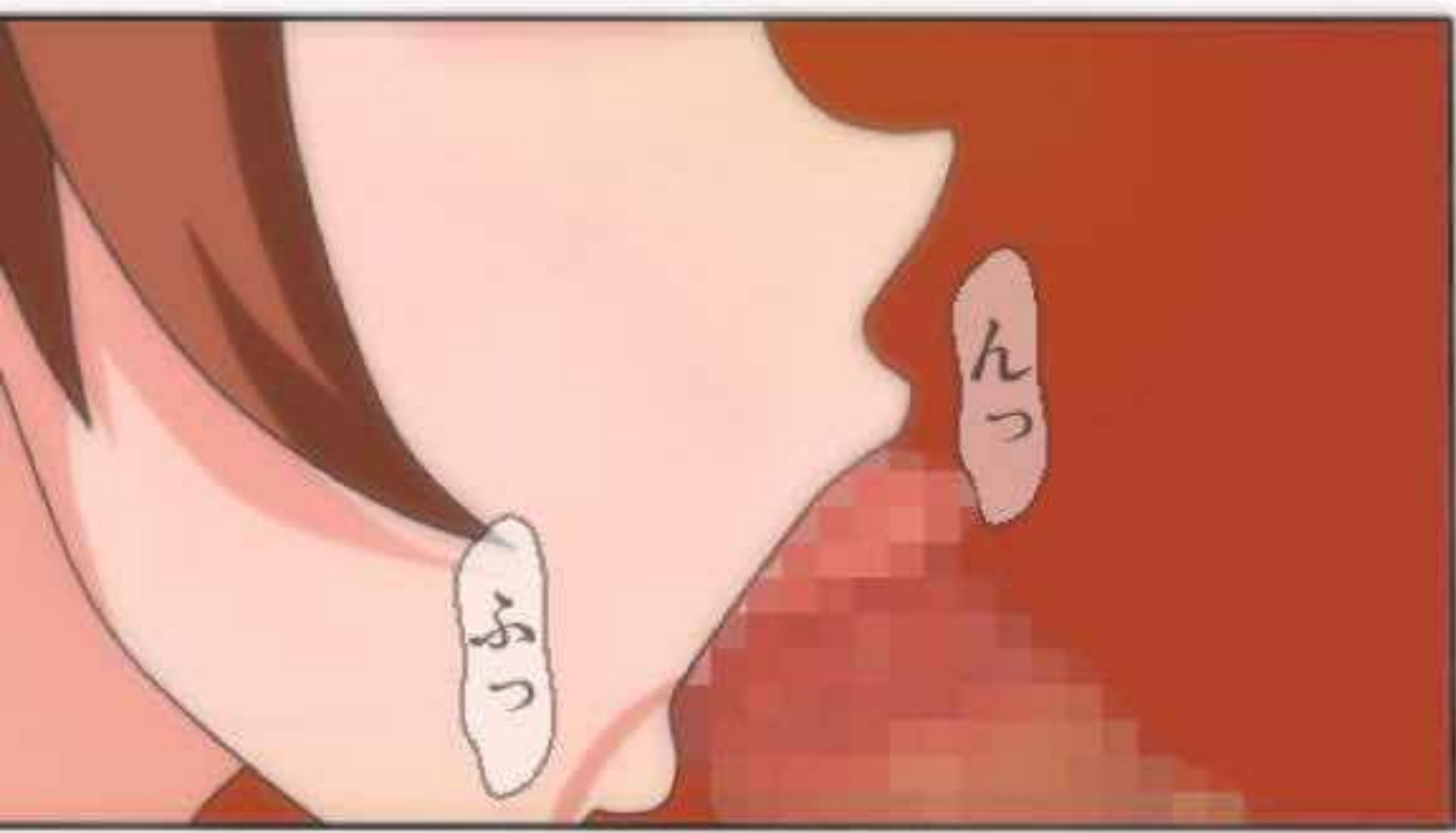
そうだ 手についた精液を
こちらに見せてくれないか



うっ！
くっ！
ここで絞ってくるとはねっ

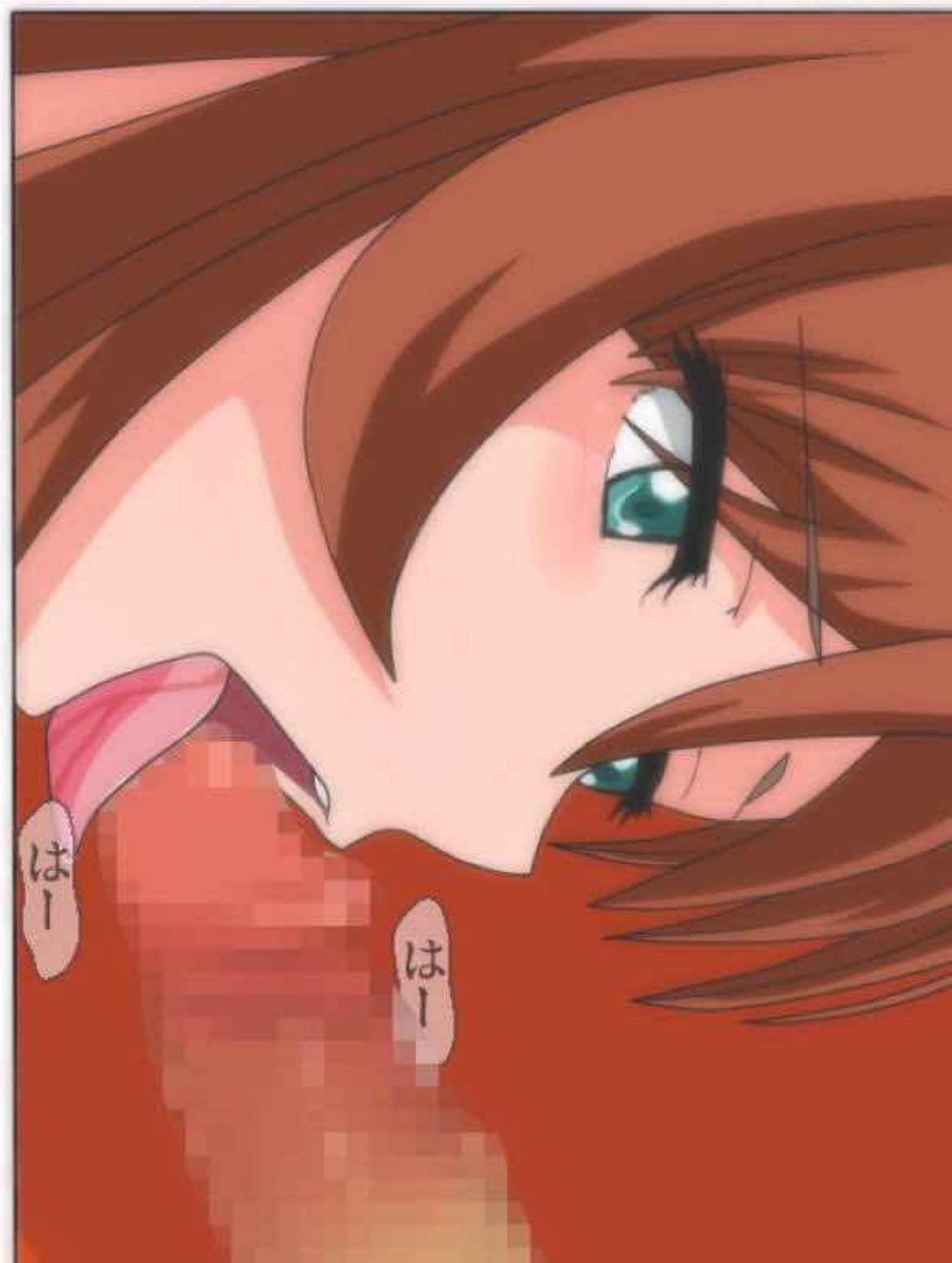


失礼...
します...



んっ

ふっ



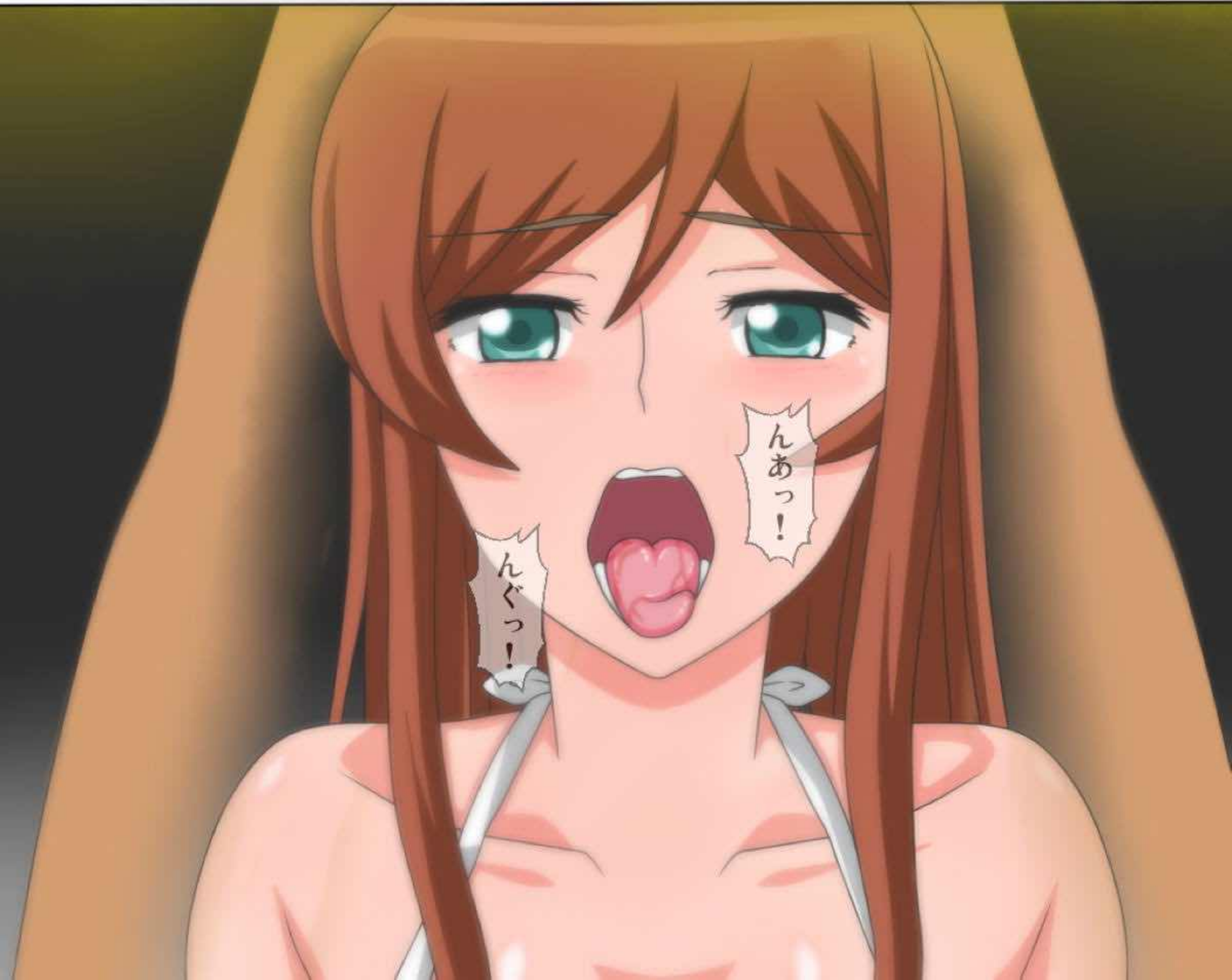
はー

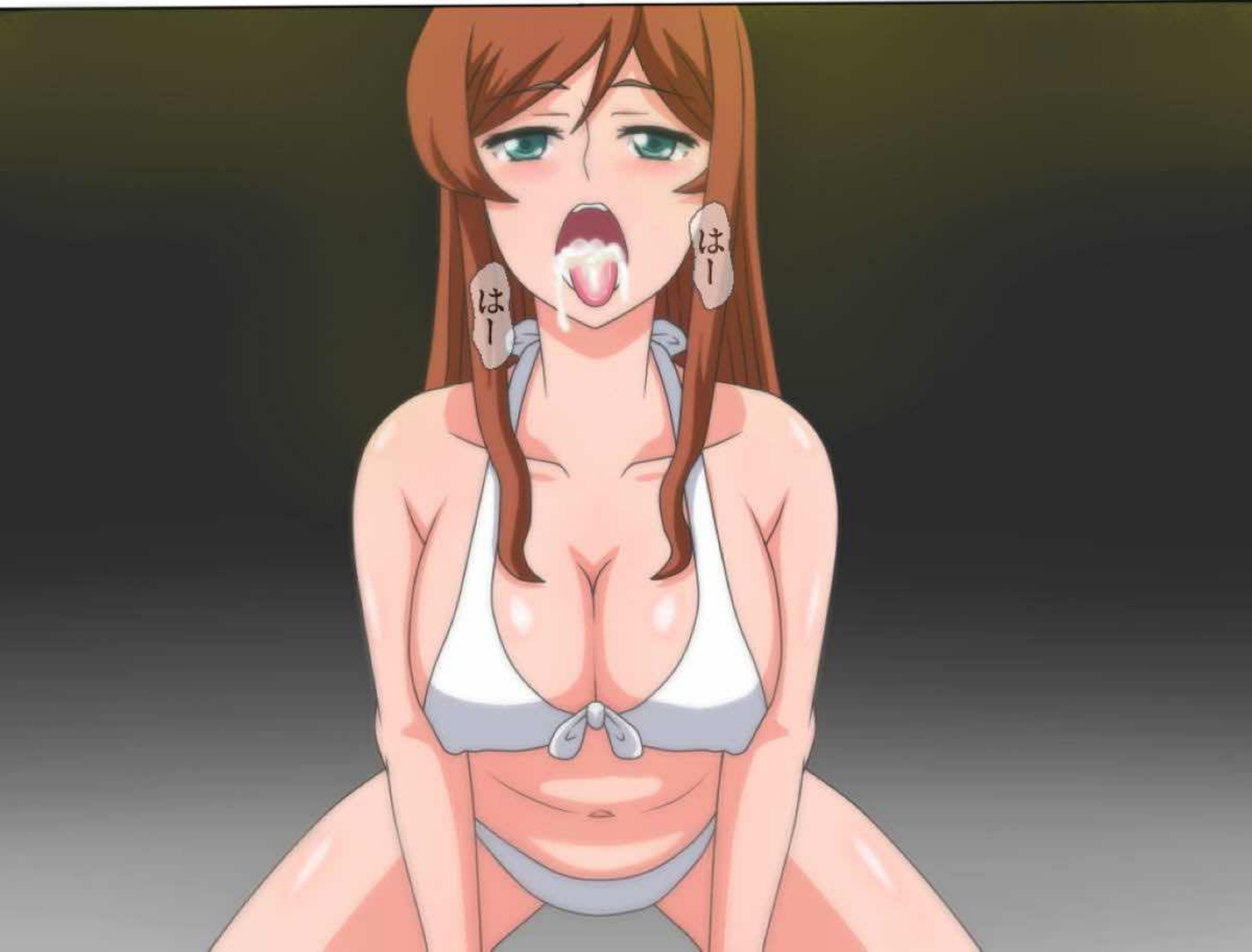
はー



はー

はー







ほら
自分でいじってないで
ちゃんとおねだりしてごらん



アフターケアもしっかりして
僕の目に狂いはなかったね

お掃除させて……
いただきます……



はい
カミキミライのオマンコに
固いおちんぼを入れてください!



あれ
だいたいぶこなれてるね



オツケー
じゃ早速いただきますちゃうよ



もしかして
他の枕に先を越されたかな？
まあ仕方がないか



ずいぶん膣内の反応がよくなったね
貪欲に男を食おうとする姿勢は
正にメス犬だよ

はあっ

あっ



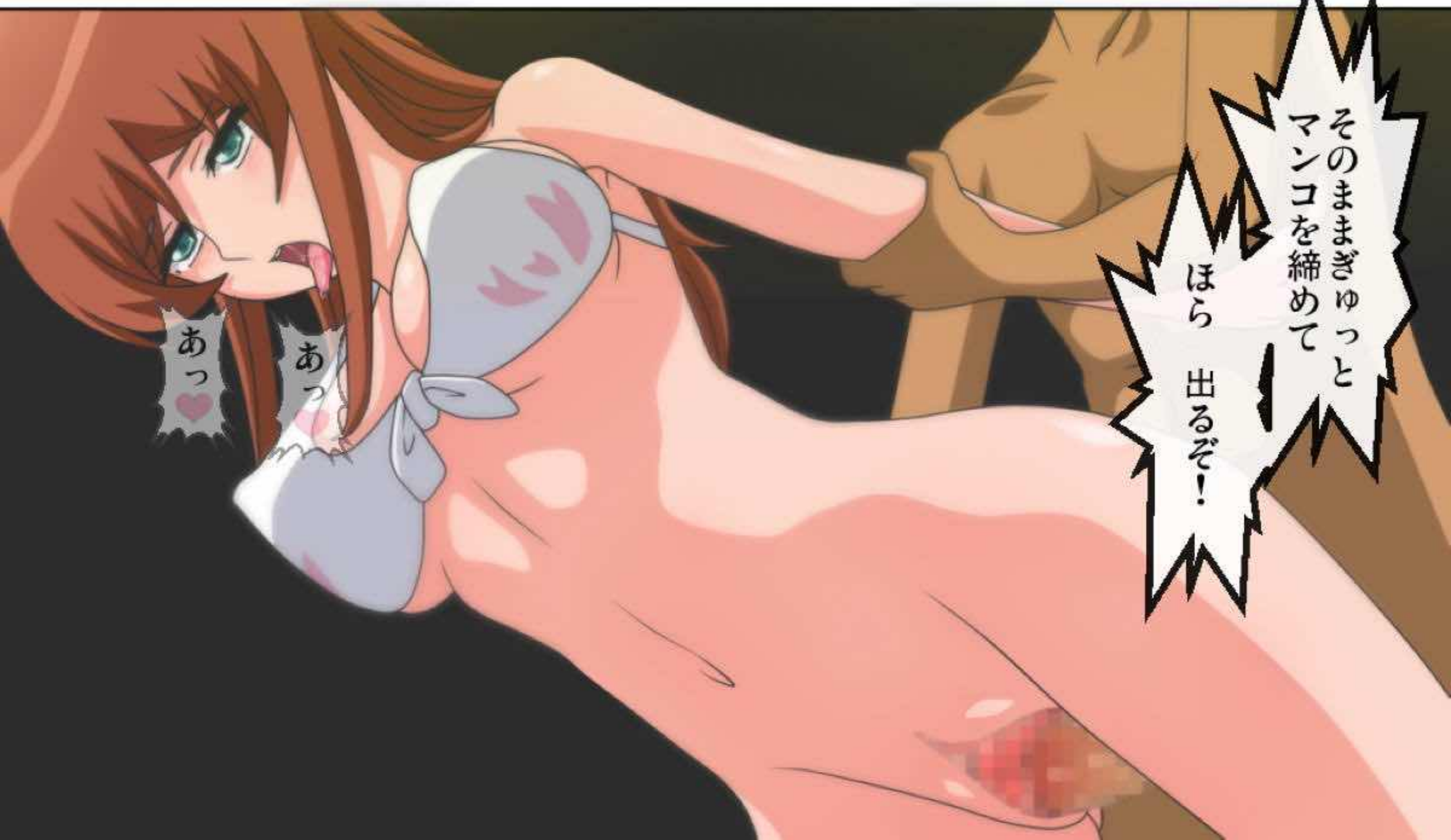
嫌に思うことはないさ
僕の女になるために
必要なことなんだからね

はー

はー



そんな
言い方あ…




そらイケッ!
孕んじまえっ!

イグッ!

イグッ!





ふう
これからは君にもたくさん
仕事を回してあげるよ

僕の女が売れない
モデルなんてのは
いやだからね



そうだ
他の女の子も呼んで皆で楽しもう
これで君も僕のハーレムの一員だ

はい…
ありがとうございます



